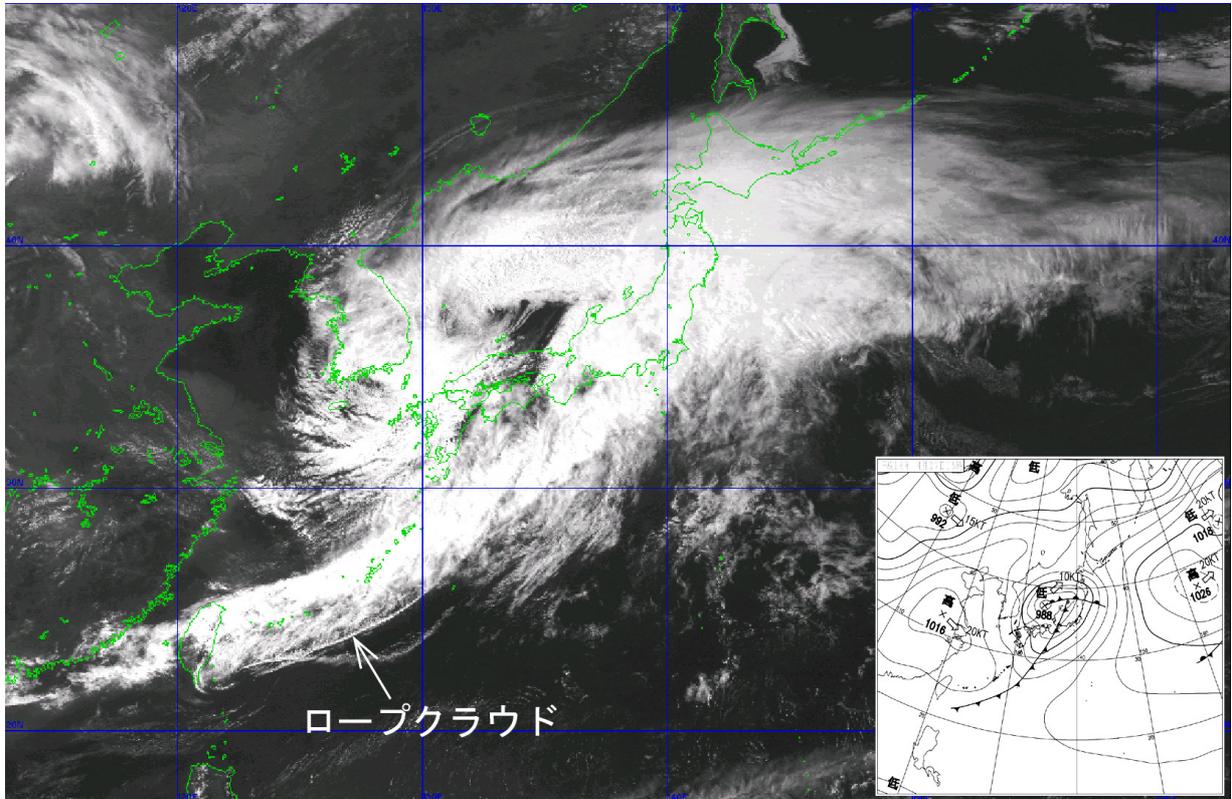


今月の気象衛星画像 (2004年4月)



2004年4月27日15時の可視画像と速報天気図

春の嵐を呼ぶ日本海低気圧

日本海で発生または発達した低気圧を日本海低気圧という。春は一年の中で最も日本海低気圧が急速に発達しやすい。発達した日本海低気圧は暴風雨雪のほか、寒冷前線通過時に突風や落雷をもたらす。また、南からの強風で気温が上がり、雪崩や融雪洪水、フェーン現象による大火などの被害が発生することがある。時として大きな災害を引き起こしてきた「春一番」や「メイストーム」も、殆どが発達した日本海低気圧によるものである。

4月27日、発達した日本海低気圧と前線の影響で日本列島は全国的に激しい雨や暴風に見舞われた。写真は当日15時の可視画像である。速報天気図では、日本海中部に低気圧があり、佐渡島の北に閉塞点が解析されている。閉塞点から寒冷前線が台湾の南東まで延びており、一部、南西諸島南方のロープクラウド*が寒冷前線に対応している。

この日は全国的に強風が吹き荒れ、建造物の破損や強風で転倒し負傷者が出るなど各地で被害が発生、空・海の便の欠航や道路・橋の通行止めなど交通網も混乱した。東京では4月としては観測史上2番目となる最大瞬間風速 32.2 m/s を観測した。

*ロープクラウド：幅 10～30km 程度の細くて長い積雲の雲列のこと。主に海上で前線性雲バンドの暖域側に沿ってみられ、この雲列を挟んで風・温度が不連続に変化するため寒冷前線に対応することが多い。
(気象衛星センター)